

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成 26 年度第 3・四半期
(平成 26 年 10~12 月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 26 年 10～12 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	13
サービス業	16
建設業	19
(3) 調査員のコメント	22
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 26 年 12 月）	25
4. 特別調査「2015 年（平成 27 年）の経営見通し」	28
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	30

調査の概要

1. 調査時期 平成 26 年 10 月～12 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	98	98
卸 売 業	28	28
小 売 業	52	52
サ ー ビ ス 業	59	59
建 設 業	43	42
合 計	280	279

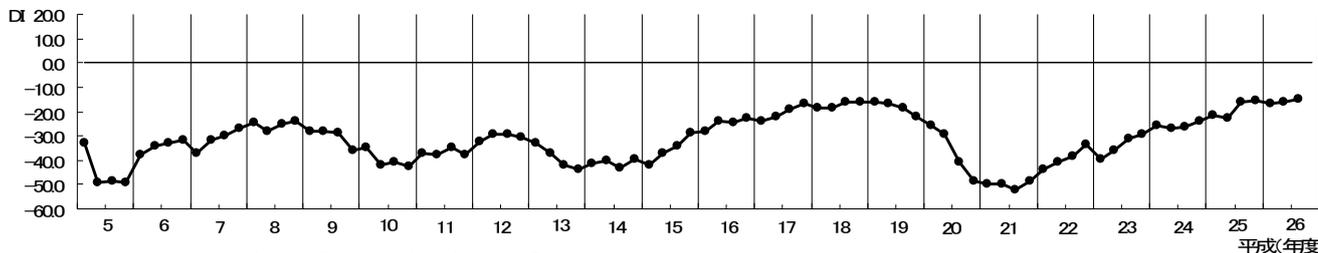
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成26年10～12月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

**業況、建設業・不動産業が牽引し悪化傾向から緩やかに持ち直す
～懸念材料は、仕入・材料価格の高騰～**



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－14.8（前期は－16.1）と前期に比べ1.3ポイント改善した。業種別に見ると、製造業・卸売業で若干悪化幅が縮小した。

来期は卸売業、小売業、サービス業で厳しさが和らぎ、建設業で好調感が縮小し、不動産業で低調感が強まると予想している。

	前期	今期	増減	来期予想	今期との増減
製造業	△15.8	△13.9	1.9	△12.5	1.4
卸売業	△16.2	△14.4	1.8	△12.3	2.1
小売業	△31.4	△30.4	1.0	△28.9	1.5
サービス業	△16.3	△16.2	0.1	△12.8	3.4
建設業	8.3	9.5	1.2	7.6	△1.9
不動産業	△4.2	△3.1	1.1	△5.3	△2.2
総合	△16.1	△14.8	1.3	△13.4	1.4

<製造業>

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額・受注残・収益は前期同様の減少幅・減益幅で推移している。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、原材料価格は上昇幅が大きく拡大した。

業種別に見ると、「化学工業」は非常に大きく好転し、「ゴム製品」は水面下ながらかなり悪化幅が縮小した。一方、「紙・紙加工品」は大きく業況感が落込み、「建設用金属」「食料品」は若干低調感を強めた。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くことと予想している。売上額・受注残・収益は今期同様の減少幅・減益幅で推移するものとみている。

<卸売業>

業況は、水面下ながら若干上向いた。売上額・収益はともに前期同様の減少幅・減益幅で推移した。価格面では、販売価格・仕入価格はともに大きく上昇幅が拡大した。

業種別では、「機械器具」がややプラスに転じ、「食料品・飲食料品」は大幅に改善した。一方、「化学製品」「鉱物・金属材料」は幾分厳しさを増した。

来期の業況は、改善傾向が続くと予想している。売上額・収益はともに持ち直すものとみている。

<小売業>

業況は、前期並の悪化幅で推移した。売上額・収益はともに前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格・仕入価格はともにやや上昇幅が拡大した。

業種別では、「ガソリンスタンド・燃料」「自転車・自動車」は大幅に持ち直し、「スポーツ用品・玩具」「飲食店」「家電・家庭用機械」「カメラ、時計・眼鏡」はわずかに悪化幅が縮小した。一方、「書籍・文房具」「家具・建具・じゅう器」はかなり深刻さを増した。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くものと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさで推移した。売上額・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格・材料価格ともにやや上昇幅が拡大した。

業種別に見ると、「自動車整備・駐車場」は大きく持ち直し、「情報サービス・調査・広告」はわずかに好調に転じた。一方、「洗濯・美容・美容」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

<建設業>

業況はわずかに好感感が強まった。売上額は幾分増加傾向が一服し、受注残は若干増加幅が拡大した。施工高は前期同様の増加が続き、収益はやや好調さを強めた。価格面では、請負価格は前期並の上昇が続き、材料価格はやや上昇傾向を強めた。

業種別に見ると、「設備工事」はかなり好調感が強まり、「職別工事」はやや強含み、「総合工事」は前期並の好感感が続いた。

来期の業況は今期を下回ると予想している。売上額・収益は今期同様の増加が続き、受注残・施工高は伸び悩むとみている。

<不動産業>

業況は前期並の悪化幅で推移している。売上額・収益はともに前期同様の水準であった。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、仕入価格はわずかに上昇幅が拡大した。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は前期並の好感感が続き、「不動産代理・仲介」は前期同様の厳しさが続いている。

来期の業況は、低調感を強めるものとみている。売上額は持ち直し、収益は今期同様の減少幅で推移すると予想している。

[注]

ディフュージョンインデックス

○D.I (Diffusion Index の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。